

平成29年度全期教員長期研修

視覚障害と知的障害を併せ有する児童の 手指機能育成プログラム



広島県立広島中央特別支援学校

教諭 刺田 昭史

目 次

プログラムの活用に当たって	2
「盲児」の探索・認知機能を育てる指導・支援（両手を巧みに使うための指導・支援）	3
指導内容一覧	4
指導・支援方法等	
つかむ・握る	5
つまむ	9
たたく	13
引く・引っぱる	17
はめる・さす	21
回す	25
洗濯ばさみ（つまむ）	29
押す・押さえる	33
入れる（はなす）	37
教材・教具の固定方法	41
評価シート（例）	42

本プログラムについて

本プログラムは、平成29年度全期教員長期研修において、「視覚障害と知的障害を併せ有する児童の手指機能を育てる自立活動の工夫－知的障害の特性に対応したプログラムに基づく指導を通して－」について追究する過程で考案したものです。視覚障害のある幼児児童を対象とした既存のプログラムをベースとし、知的障害の特性に対応するための二つの方策を取り入れて作成しています。二つの方策とは、「児童の興味・関心を広げる」「段階的な指導を行う」です。これらの方策に基づいて、本プログラムでは、「活動」「教材・教具」「指導内容」「支援の段階」に係る具体的な内容を設定しています。なお、下表はその関連について整理したものです。

※知的障害の特性に対応するための二つの方策とプログラムとの関連

方策	児童の興味・関心を広げる	段階的な指導を行う		
目的	必然性を高め、意欲を高める	スマールステップで、手指の技能を習得させる		
項目	活動	教材・教具	指導内容	支援の段階

また、本プログラムは、日々の授業に役立てることができるよう、「授業づくりをイメージしやすくすること」「児童の実態に応じて柔軟に活用できるようにすること」を重視しました。忌憚のない御意見や御指導がいただければ幸いです。

平成30年3月
広島県立広島中央特別支援学校
教諭 刺田 昭史

プログラムの活用に当たって

本プログラムは、視覚障害と知的障害を併せ有する児童の手指機能を育てることを目的としたものである。作成に当たっては、五十嵐信敬（1994）の「視覚障害児用手指運動訓練プログラム」※¹と、「広D式手指運動発達基準表」※²を参考にした。プログラムには、指導内容一覧と各指導内容別の指導・支援方法等を示している。指導・支援方法等は、次の1～5の項目に示した考えに基づいている。なお、このプログラムの活用に当たっては、対象となる児童の実態に応じて、活動や教材・教具に変化を加えたり、各指導内容を相互に関連付けたりするなどの工夫を行っていただきたい。

（※1、※2は、五十嵐信敬（1994）：『目の不自由な子の感覚教育百科』コレール社に掲載されている。）

1 指導内容（標準年齢）

○指導内容

- ・「視覚障害児用手指運動訓練プログラム」の「I 基本運動」に取り上げられている手指機能を「広D式手指運動発達基準表」の発達段階に基づいて再構成した。そこでは、児童にとって手指を使う行為と結果の関係が明確であることや、日常生活への応用が期待できるといった観点を重視した。

○標準年齢

- ・「広D式手指運動発達基準表」の標準年齢を主に参考にした。

○「基礎」「応用」

- ・「基礎」には、その段階において基礎となる手指の技能を示した。「応用」には、基礎となる手指の技能をさらに応用させた内容を示した。

2 活動例

○意欲を高めるストーリー

- ・児童の興味・関心を広げ、手指を使う活動に意欲的に取り組むことができるようにするためのストーリーを例示した。児童の生活経験を考慮し、身近に感じられると考える事柄からストーリーを設定した。
- ・1～3の三つの場面により、類似した展開を繰り返しながら、活動に変化を加えることができるようになした。1場面では、その段階において基礎となる手指の技能を習得させ、2、3場面では、教材・教具に変化を加えて、基礎となる手指の技能をさらに応用させることを想定した。

○活動における工夫点

- ・活動への興味・関心を広げたり、見通しをもちやすくしたりするための工夫点を示した。

○参考絵本

- ・ストーリーの参考とした絵本を記載した。児童の実態に応じて読み聞かせ等にも活用できる。児童にとって分かりやすく、興味・関心をもちやすいように、同じ言葉や展開の繰り返しがあったり、擬音語等が含まれていたりするものを主に選定した。

3 教材・教具

○教材・教具

- ・聴覚や触覚等への応答性が高くなるよう、素材や操作性に工夫を行った。
- ・指導目標とする手指の動作を必然的に導くことができる構造にする等の工夫を行った。

○教材・教具に変化を加えるための工夫点

- ・その段階において基礎となる手指の技能を習得させ、それをさらに応用させるために、教材・教具に変化を加えるための工夫点を示した。工夫の視点は、素材（手触り、固さ）、形状、大きさ、重さ、位置、提示方法等である。まず児童が最も扱いやすいものを用いて、基礎となる手指の技能を習得させた後、それを応用して、より力を入れたり、持続力を高めたりする等の指導を行うことを想定した。

4 支援の段階

○支援の段階

- ・身体ガイダンスの具体的な方法を5段階で設定し、段階的に支援を弱めることができるようになした。支援の具体的な方法が分かりやすいように示しているが、身体の接触度合いとコントロールする力を弱めるという原則に基づいて、児童の実態に応じて設定することも可能である。
- ・支援の段階は、児童の手指機能の伸びを客観的に評価するための基準として用いることも想定した。

○支援の段階の考え方

- ・フェイディングの手続きに沿って、支援の各段階における基本となる考え方を示した。

5 両手を巧みに使うための指導・支援

- ・探索・認知機能を育てる指導・支援について、両手を巧みに使うための具体的な指導・支援方法を示した。

「盲児」の探索・認知機能を育てる指導・支援（両手を巧みに使うための指導・支援）

- 探索する対象物や範囲を明確にし、両手を使って隅々までまんべんなく触る方法を身に付けさせる。
- 片方の手で入れる場所等を特定し、ガイドしながら、もう一方の手で物を入れる等の操作をすることにより、両手の分業と協応を促す。
- まず、全体を触らせ、対象物の大まかな全体像や空間の範囲をつかませる。次に、必要な部分を触らせる。全体と部分を繰り返し触らせて、全体と部分の関係をイメージさせる。
- 縦、横、斜めの直線や円弧等をたどらせることにより、手指の運動の統制を促す。
- 形、大きさ、長さ、重さ、硬さ、粗滑等の違いが分かりやすい物を触らせ、言葉と対応させて、属性の弁別を促す。

【参考】「盲児」の指導・支援における基本的な考え方

項目	内容
バーバリズムの回避	<ul style="list-style-type: none">○実態：視覚による情報収集が困難な「盲児」は、言葉の概念やイメージを適切に身に付けることが難しいため、バーバリズム（唯言語主義）※に陥りやすい。（※適切な概念やイメージを伴わないで、言葉だけが独り歩きをしているような状態。）○指導・支援：聴覚や触覚等のあらゆる感覚によって、事物・事象を観察させたり経験させたりして、言葉と事物・事象を対応させる。具体的な操作や活動を重視して指導する。
自己の身体に関するイメージの構成	<ul style="list-style-type: none">○実態：「盲児」は、他人の動作や運動を視覚的に捉えて模倣することが難しいため、自己の身体に関するイメージが育ちにくい。○指導・支援：自己の身体に関するイメージは、あらゆる活動を行う際の外界との接点として重要な役割をもっている。そのため、身体各部の位置と名称を対応させ、腕を伸ばす、腕を真上に上げる等の動作を言葉と対応させて繰り返し指導する。
動作の指導・支援	<ul style="list-style-type: none">○実態：「盲児」は、他人の動作や運動を視覚的に捉えて模倣することが難しいため、動作の習得が難しかったり、動作がぎこちなかったりする。○指導・支援：動作を教える場合には、指導者は子供の後ろから手を添えて支援する方法が有効である。この支援により、子供は指導者の体の部位や筋、関節の動きをストレートに捉えることができるため、動作を模倣することが可能となる。対面式で支援した場合は、指導者と子供の体の動きが左右逆になるため、子供の理解に混乱を生じさせる可能性がある。
実物・模型等の活用	<ul style="list-style-type: none">○実態：「盲児」は、絵や写真等の視覚的な情報を活用した学習が困難である。○指導・支援：触って確かめたり、操作したりすることのできる教材・教具や音声による教材・教具等を十分に整備する。
時間と空間の枠組みの重視	<ul style="list-style-type: none">○実態：「盲児」は、環境の認知や状況の判断が困難であるため、主体的な活動が阻害されがちである。○指導・支援：学習活動に見通しをもって、主体的に取り組むことのできる状況をつくるために、授業の流れや空間的な状況を的確に把握させる。活動の手順、人や物の位置関係を予め把握させ、指導者の指示を一つ一つ得なくともできる状況をつくる。

【参考文献】

- 香川邦生（2016）：『五訂版 視覚障害教育に携わる方のために』慶應義塾大学出版会
青柳まゆみ・鳥山由子（2012）：『視覚障害教育入門』ジース教育新社
文部科学省（平成15年）：『点字学習指導の手引（平成15年改訂版）』日本文教出版

指導内容一覧

手指機能	段階	指導内容	標準年齢※
つかむ・握る [掌握機能]	1	近くにある物に手を伸ばしてつかむ	0:6
	2	親指と他の指が向かい合うようにしてつかむ	0:9
	3	数個の物を一度につかむ	1:3
つまむ [掌握機能]	1	親指と人差し指の側面でつまむ	0:6
	2	親指と人差し指の先でつまむ	0:9
	3	小球・小粒・棒状の物をつまむ	1:3
たたく [操作機能]	1	手のひらでたたく	0:0
	2	手に持った物でたたく	0:6
	3	両手で打ち合わせる	0:9
引く・引っ張る [操作機能]	1	手のひら全体で持って引っ張る	0:6
	2	ひも等をつまんで引っ張る	1:3
	3	長いひもをたぐりよせる	2:0
はめる・さす [操作機能]	1	簡単なはめ板・ペグ刺しをする	1:3
	2	ふた・ブロックをはめたり外したりする	1:6
	3	様々な形のはめ板・ペグ刺しをする	2:6
回す [操作機能]	1	びんのふたを開ける	2:0
	2	びんのふたを閉める	2:6
	3	ひもを巻き付ける	3:0
洗濯ばさみ (つまむ) [掌握機能] [操作機能]	1	洗濯ばさみを外す（上から・横から）	2:6
	2	洗濯ばさみで挟む（上から・横から）	3:0
	3	洗濯ばさみで挟む（両手で挟む）	3:0

【共通】※

手指機能	段階	指導内容	標準年齢※
押す・押さえる [操作機能]	1	手のひらで物を押す	0:6
	2	手のひらで物を押さえ続ける 指先でボタン・スイッチを押す	0:9
	3	指先で物を押さえ続ける	1:6
入れる(はなす) [掌握機能]	1	かご等の中に物を入れる	0:9
	2	握っている物を小さい箱等に入れる	1:3
	3	つまんでいる小球・小粒をコップ等に入れる	2:0

※【共通】として示している「押す・押さえる」「入れる(はなす)」の指導内容は、上側の表に示した各指導内容の活動と関連させることを想定している。具体的には、「押す・押さえる」はスイッチの操作、「入れる(はなす)」は物をカゴ等に入れて運んだり、片付けたりすることであり、これらを各指導内容の活動と関連させて設定する。

※標準年齢の記載について、例えば0:6は0歳6か月を意味する。

つかむ・握る

段階	指導内容	標準年齢
1	近くにある物に手を伸ばしてつかむ	0 : 6
2	親指と他の指が向かい合うようにしてつかむ	0 : 9
3	数個の物を一度につかむ	1 : 3

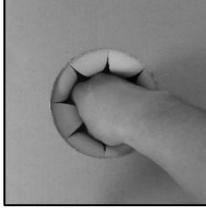
指導内容：つかむ・握る 1段階

項目	内容						
指導内容 (標準年齢)	近くにある物に手を伸ばしてつかむ (0:6~)						
	基礎	物に自分から手を伸ばしてつかむ。					
	応用	様々な形、大きさ、重さ等の物に自分から手を伸ばしてつかむ。					
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点					
	<p>◇宝探しに行き、宝物を取る。取った宝物を教室に飾る。</p> <p>1場面：宝の島に行き宝物を取る。</p> <p>2場面：宝の山に行き宝物を取る。</p> <p>3場面：宝の穴に行き宝物を取る。</p> <p>宝物をつかんで取る。取った宝物をカゴ等に入れて持ち帰り、宝箱に入れる。</p>	<p>○台車（船）、マット（山）、トンネル（穴）等を用いて、場面を分かりやすくする。</p> <p>○波の音や鳥のさえずり等を用いて、雰囲気づくりをする。</p>					
教材・教具	参考絵本 『おばけとたからさがし』 作：新井洋行 2015 くもん出版	教材・教具に変化を加えるための工夫点					
	 <p>○フェルト、スポンジ、紙やすり等、様々な感触の素材を用いる。</p> <p>○面ファスナーで付けて固定する。</p>	<p>【宝物】</p> <p>○素材：柔らかい↔硬い、粗い↔滑らか等</p> <p>○形状：棒、球等</p> <p>○大きさ：小さい←つかみやすい大きさ→大きい</p> <p>○重さ：軽い←つかみやすい重さ→重い</p> <p>○宝の固定：面ファスナーで弱く付ける→強く付ける</p>					
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につかんで取る。 児童の手の甲に手を添えて、児童がつかんだら手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつかみかけたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 						
	支援の段階の考え方	<table border="1"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td>5 身体介助なし</td> <td></td> </tr> </table>	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	5 身体介助なし
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助						
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助						
5 身体介助なし							
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○宝物がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○全て取り終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○宝物をカゴ等に入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p>						

指導内容：つかむ・握る 2段階

項目	内容							
指導内容 (標準年齢)	親指と他の指が向かい合うようにしてつかむ (0:9~)							
基礎	親指と他の指が向かい合うようにして物をつかむ。							
応用	親指と他の指が向かい合うようにして、様々な形、大きさ、重さ等の物をつかむ。							
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇お腹がすいている動物に、果物を取って食べさせる。</p> <p>1場面：サルに果物を食べさせる。</p> <p>2場面：ウマに果物を食べさせる。</p> <p>3場面：ゾウに果物を食べさせる。</p> <p>吊り下げた状態の果物をつかんで取る。</p> <p>取った果物をカゴ等に入れて運び、動物の口に入れる。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○動物の鳴き声等を用いて、場面を分かりやすくする。</p> <p>○好きな動物や果物を児童に選択させることもできる。</p>						
参考絵本	<p>『音としかけのえほん① おなかがすいたよ』 絵：曾根悦子 案：わだことみ 2001 ポプラ社</p> <p>『おなかがすいた』 文：伊東友香 絵：KAZUKO 2009 創芸社</p>							
教材・教具	 <p>○動物の口に果物を入れると、VOCALから音声が再生される。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【果物】</p> <p>○形状：バナナ、ミカン、リンゴ等</p> <p>○大きさ：小さい→つかみやすい大きさ→大きい</p> <p>○重さ：軽い→つかみやすい重さ→重い</p> <p>○果物の固定：弱く挟んで吊るす→強く挟んで吊るす</p>						
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、親指と他の指が向かい合うようにして一緒につかむ。 児童の手の甲に手を添えて、児童がつかんだら手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつかみかけたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 							
支援の段階の考え方	<table border="1"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td><td>2 手を添えて途中まで介助</td></tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td><td>4 手首や肘を支えて介助</td></tr> <tr> <td>5 身体介助なし</td><td></td></tr> </table>		1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	5 身体介助なし	
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助							
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助							
5 身体介助なし								
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○果物がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○全て取り終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○果物をカゴや動物の口に入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p>							

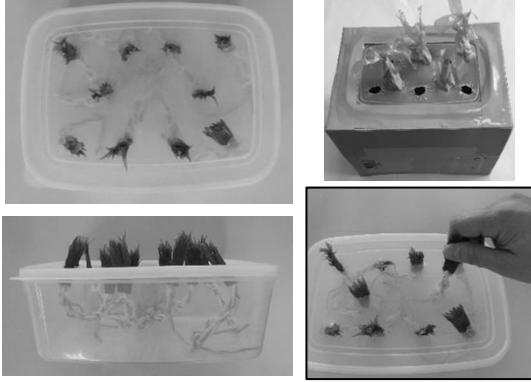
指導内容：つかむ・握る 3段階

項目	内容										
指導内容 (標準年齢)	数個の物を一度につかむ (1 : 3~)										
	基礎	数個の物を一度につかむ。									
	応用	様々な素材、形、大きさの物を一度に数個つかむ。									
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇お祭り（縁日）に行き、つかみ取りゲームをする。</p> <p>1場面：春祭りでつかみ取りをする。</p> <p>2場面：夏祭りでつかみ取りをする。</p> <p>3場面：秋祭りでつかみ取りをする。</p> <p>箱に入っている物を片手でつかんで取り出す。取った物はカゴ等に入れて持ち帰る。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○お祭りの雰囲気を味わうことができる音楽等を用いて、場面を分かりやすくする。</p>									
	参考絵本 『パオちゃんのなつまつり』 作・絵：仲川道子 2003 P H P 研究所										
教材・教具	   <p>○スーパーボール、ビー玉、積み木等を用いる。 ○箱の上部を取り外して、手を入れる穴がない状態で用いることもできる。（右上）</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【つかみ取りする物】</p> <p>○素材：柔らかい↔硬い等</p> <p>○形状：球、立方体等</p> <p>○大きさ：小さい←つかみやすい大きさ→大きい</p>									
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につかんで取る。 児童の手の甲に手を添えて、児童がつかんだら手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつかみかけたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 <table border="1"> <tr> <td>支援の段階の考え方</td> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> </tr> </table>		支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助		3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助			5 身体介助なし
支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助									
	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助									
		5 身体介助なし									
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○つかみ取りする物がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○取った物をカゴ等に入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p>										

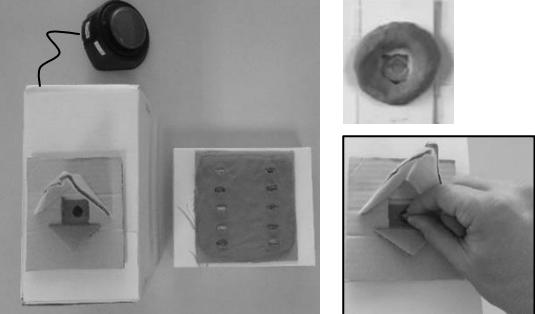
つまむ

段階	指導内容	標準年齢
1	親指と人差し指の側面でつまむ	0 : 6
2	親指と人差し指の先でつまむ	0 : 9
3	小球・小粒・棒状の物をつまむ	1 : 3

指導内容：つまむ 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	親指と人差し指の側面でつまむ (0：6～)	
	基礎	親指と人差し指の側面で物をつまむ。
活動例	意欲を高めるストーリー	
	<p>◇畑の草取りをして、できた野菜を収穫する。</p> <p>1場面：草を抜いて、人参を収穫する。</p> <p>2場面：草を抜いて、大根を収穫する。</p> <p>3場面：草を抜いて、ごぼうを収穫する。</p> <p>草をつまんで引き抜く。草を引き抜いて畑をきれいにしたら野菜ができ、それを収穫して持ち帰る。</p>	
参考絵本	<p>『ちいさいはたけ』 作：柳生まち子 2006 福音館書店</p> <p>『うさこちゃんのはたけ』 文・絵：ディック・ブルーナ 2005 福音館書店</p>	
		
教材・教具	<p>○草の茎の部分をプラスチックチェーンにすることで、引き抜くときに、適度な抵抗を感じじができる。</p>	
	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【草】</p> <p>○素材：実際の草に近い感触のもの</p> <p>○大きさ：つまみやすい大きさ</p> <p>○引き抜く強さ：適度な抵抗を感じる強さ→徐々に強く</p>	
支援の段階	<p>1 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につまんで抜く。</p> <p>2 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につまんで途中まで抜けたら手を離す。</p> <p>3 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつまんだら手を離す。</p> <p>4 児童の手首や肘を軽く持って支える。</p> <p>5 身体介助なし。</p>	
	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○草がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○全て取り終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○つまんで取ることに慣れたら、片方の手で押さえながら取るようにさせる。</p>	

指導内容：つまむ 2段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	親指と人差し指の先でつまむ (0：9～)	
	基礎	親指と人差し指の先で物をつまむ。
	応用	「基礎」より小さい物 (1cm程度の物) をより強い力でつまむ。
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇お腹のすいた生き物に、えさをあげる。 1場面：鳥にえさをあげる。 2場面：鯉にえさをあげる。 3場面：ハムスターにえさをあげる。 えさ箱からえさを一つずつつまんで取り、生き物の口に入れる。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○生き物の鳴き声等を用いて、場面を分かりやすくする。 ○えさをあげる生き物を選択させることもできる。</p>
	<p>参考絵本</p> <p>『音としあわせのえほん① おなかがすいたよ』 絵：曾根悦子 案：わだことみ 2001 ポプラ社</p> <p>『おなかがすいた』 文：伊東友香 絵：KAZUKO 2009 創芸社</p>	
教材・教具	 <p>○口の部分にえさ（ビー玉、おはじき等）を入れると、VOCALから音声が再生される。 ○生き物に応じて口の部分を取り換えることができる。（右上） ○えさを立てる深さを変えることで、つまむ面積を広くしたり、狭くしたりできる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【えさ】</p> <p>○素材：ビー玉、おはじき、ボタン ○形状：球、円 ○大きさ：つまみやすい大きさ→徐々に小さく ○つまむ面積：つまみやすい広さ→徐々に狭く</p>
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、親指と人差し指の先でつまむようにして一緒につまむ。 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につまんで途中で手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつまんだら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 	
	支援の段階の考え方	<p>1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし</p>
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○えさがある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。 ○全て取り終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。 ○えさを生き物の口に入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p>	

指導内容：つまむ 3段階

項目	内容						
指導内容 (標準年齢)	小球・小粒・棒状の物をつまむ (1:3~)						
	基礎	2段階よりさらに小さい物 (0.5~1cm程度) を親指と人差し指の先でつまむ。					
	応用	「基礎」よりも小さい物 (0.5cm以下) を親指と人差し指の先でつまむ。					
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点					
	<p>◇くじ引きゲームをして、当たりくじを引いたら好きな遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランポリン ・音楽 (歌・合奏) ・おもちゃ 等 <p>くじをつまんで引き抜き、当たりの印が出れば好きな遊びを選んで行うことができる。</p>	<p>○児童の好きな遊びを複数準備し、選択させる。</p>					
教材・教具	参考絵本 『ふわふわゆびにんぎょうえほん なにしてあそぶ』 人形デザイン：原優子 絵：佐古百美 2016 金の星社	教材・教具に変化を加えるための工夫点					
		<p>【くじ】</p> <p>○形状：球、棒</p> <p>○大きさ：つまみやすい大きさ→徐々に小さく</p> <p>○糸にビーズを複数個通したくじを用いることで、引き抜くときに抵抗を感じることができる。当たりの印にビニールひもを付ける。</p> <p>○ビーズの大きさで難易度を変化させる。</p>					
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の手の甲に手を添えて、親指と人差し指の先でつまむようにして一緒につまむ。 2 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につまんで途中で手を離す。 3 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつまんだら手を離す。 4 児童の手首や肘を軽く持って支える。 5 身体介助なし。 						
	支援の段階の考え方	<table border="0"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td>5 身体介助なし</td> <td></td> </tr> </table>	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	5 身体介助なし
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助						
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助						
5 身体介助なし							
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○くじがある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○全て引き終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○つまんで引くことに慣れたら、片方の手で押さえながら引くようにさせる。</p> <p>○当たりの印を自分で触って確認させる。</p>						

たたく

段階	指導内容	標準年齢
1	手のひらでたたく	0 : 0
2	手に持った物でたたく	0 : 6
3	両手で打ち合わせる	0 : 9

指導内容：たたく 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	手のひらでたたく (0：0～)	
	基礎	手のひらでたたく。
	応用	より狭い太鼓の面をねらってたたく。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	<p>◇たたいて音を出す楽器を使って、演奏する。</p> <p>1場面：音楽会をする。</p> <p>2場面：パレードをする。</p> <p>3場面：お祭り（盆踊り）をする。</p> <p>音楽を聴きながら、太鼓や手作りの楽器をたたいて鳴らす。</p>	<p>○様々な音楽を用いて、演奏を楽しむことができるようとする。</p> <p>※たたくときのリズムやテンポは、指導のねらいとしない。</p>
参考絵本	<p>『ポポくんのおんがくかい』 作：accototo ふくだとしお+あきこ 2010 P H P 研究所</p> <p>『おぼんぼんぼんぼんおどりの日！』 作：ますだゆうこ 絵：たちもとみちこ 2015 文溪堂</p>	
	<p>○市販の太鼓に加え、紙箱の太鼓（左）、バケツにガムテープを貼った太鼓（中央）、缶の太鼓（右）等を用いる。</p> <p>○太鼓の中に鈴を入れ、たたくと音が鳴るようにすることもできる。</p>	
教材・教具	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【太鼓】</p> <p>○素材：たたいたときの音や感触が多様なものの（市販の太鼓、缶、箱等）</p> <p>○太鼓の面：広く→狭く</p>	
	<p>1 児童の手の甲に手を添えて、一緒にたたく。</p> <p>2 児童の手の甲に手を添えて、何度か一緒にたたいて手を離す。</p> <p>3 児童の手の甲に軽く手を添えて、たたこうとしたら手を離す。</p> <p>4 児童の手首や肘を軽く持って支える。</p> <p>5 身体介助なし。</p>	
支援の段階	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
	<p>○太鼓がある場所を確認させるため、音源をたよりに、自分から手を伸ばして両手を左右に動かして探すようにさせる。</p>	
両手を巧みに使うための指導・支援		

指導内容：たたく 2段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	手に持った物でたたく (0 : 6~)	
	基礎	手に持った物でたたく。
	応用	様々な太さや重さのバチを持ってたたく。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	<p>◇たたいて音を出す楽器を使って、演奏する。</p> <p>1場面：音楽会をする。</p> <p>2場面：パレードをする。</p> <p>3場面：お祭り（盆踊り）をする。</p> <p>音楽を聴きながら、太鼓や手作りの楽器をたたいて鳴らす。</p>	<p>○様々な音楽を用いて、演奏を楽しむことができるようとする。</p> <p>※たたくときのリズムやテンポは、指導のねらいとしない。</p>
参考絵本	<p>『ポポくんのおんがくかい』 作：accototo ふくだとしお+あきこ 2010 PHP研究所</p> <p>『おぼんぼんぼんぼんおどりの日！』 作：ますだゆうこ 絵：たちもとみちこ 2015 文溪堂</p>	
		
教材・教具	<p>○市販のバチに加え、様々なバチを用いる。 (右)</p> <p>○鉄琴や木琴を使うこともできる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【太鼓、バチ】</p> <p>○素材（太鼓）：たたいたときの音が多様なもの（市販の太鼓、缶、箱等）</p> <p>○素材（バチ）：木、プラスチック等</p> <p>○太さ（バチ）：細く←持ちやすい太さ→太く</p> <p>○重さ（バチ）：軽く←持ちやすい重さ→重く</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に持つてたたく。 児童の手の甲に手を添えて、何度か一緒にたたいて手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、たたこうとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持つて支える。 身体介助なし。 	
支援の段階	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
	<p>○太鼓がある場所を確認させるために、音源をたよりに、自分から手を伸ばして両手を左右に動かして探すようにさせる。</p>	
両手を巧みに使うための指導・支援		

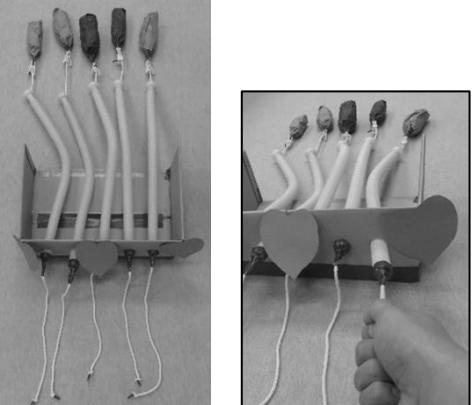
指導内容：たたく 3段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	両手で打ち合わせる (0 : 9~)	
	基礎	両手に持った物を打ち合わせる。
	応用	片方の手に楽器を持ち、もう一方の手でたたく。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	<p>◇打ち合わせて音を出す楽器を使って、演奏する。</p> <p>1場面：音楽会をする。</p> <p>2場面：パレードをする。</p> <p>3場面：お祭り（盆踊り）をする。</p> <p>音楽を聴きながら、楽器を打ち合わせて鳴らす。</p>	<p>○様々な音楽を用いて、演奏を楽しむことができるようとする。</p> <p>※打ち合わせるときのリズムやテンポは、指導のねらいとしない。</p>
教材・教具	参考絵本 『ポポくんのおんがくかい』 作:accototo ふくだとしお+あきこ 2010 P H P 研究所 『おぼんぼんぼんぼんおどりの日！』 作：ますだゆうこ 絵：たちもとみちこ 2015 文溪堂	教材・教具に変化を加えるための工夫点
	 <p>○市販のシンバル、クラベス、カスタネット、タンブリンに加え、灰皿で作ったシンバル（左）、角材で作った拍子木（右）等を用いる。</p>	<p>【楽器】</p> <p>○素材：打ち合わせたときの音が多様なもの（シンバル、クラベス、カスタネット、タンブリン等）</p>
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に持つて打ち合わせる。 児童の手の甲に手を添えて、何度か一緒に打ち合わせてから手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、打ち合わそうとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持つて支える。 身体介助なし。 	
	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
両手を巧みに使うための指導・支援		

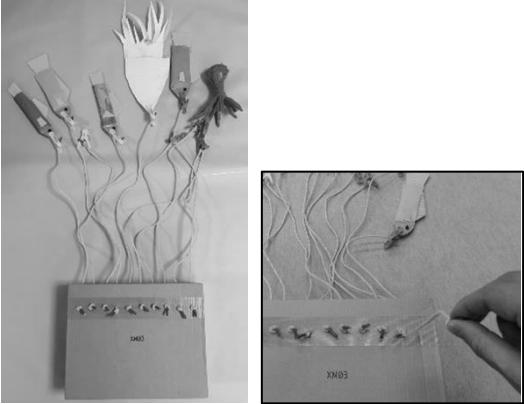
引く・引っぱる

段階	指導内容	標準年齢
1	手のひら全体で持って引っ張る	0 : 6
2	ひも等をつまんで引っ張る	1 : 3
3	長いひもをたぐりよせる	2 : 0

指導内容：引く・引っぱる 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	手のひら全体で持って引っぱる (0 : 6~)	
	基礎	手のひら全体でひもを持って引っぱる。
	応用	様々な太さのひもを、より力を入れて引っぱる。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	<p>◇いもほりに行き、いものつるを引っぱって収穫する。</p> <p>1場面：小さいもを収穫する。</p> <p>2場面：中くらいのいもを収穫する。</p> <p>3場面：大きいもを収穫する。</p> <p>いもほりに行き、つるを引っぱっていもを収穫する。収穫したいもをカゴ等に入れて持ち帰る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「よいしょ」等の掛け声や音楽等で雰囲気づくりをする。 ○いものボスと綱引きをする活動を設定することもできる。
教材・教具	参考絵本 『いもほりよいしょ！』 作：きむら ゆういち 絵：いもと ようこ 1997 教育画劇 『おいもほり』 作：中村 美佐子 絵：いもと ようこ 2011 ひかりのくに	教材・教具に変化を加えるための工夫点
	 <p>○茎に蛇腹のホースを用いることで、引き抜くときに適度な抵抗を感じることができる。</p>	<p>【いも、つる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大きさ（いも）：小さい→大きい ○重さ（いも）：ほどよく抵抗を感じる重さ→重く ○太さ（つる）：細く←もちやすい太さ→太く
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の手の甲に手を添えて、一緒に持つて引っぱる。 2 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒に引っぱって手を離す。 3 児童の手の甲に軽く手を添えて、引っぱりはじめたら手を離す。 4 児童の手首や肘を軽く持つて支える。 5 身体介助なし。 	
	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
両手を巧みに使うための指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○つるがある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。 ○いもがある場所を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。 	

指導内容：引く・引っぱる 2段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	ひも等をつまんで引っぱる (1 : 3~)	
	基礎	ひも等を親指と人差し指の先でつまんで引っぱる。
	応用	より細いひもを親指と人差し指の先でつまんで、強い力で引っぱる。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	<p>◇魚釣りに行き、魚を釣る。</p> <p>1 場面：川で魚を釣る。</p> <p>2 場面：池で魚を釣る。</p> <p>3 場面：海で魚を釣る。</p> <p>魚釣りに行き、釣り糸をつまんで引っぱって魚を釣る。釣った魚を持ち帰る。</p>	<p>○水の音や関係のある音楽等を用いて、場面が分かりやすいようにする。</p> <p>○釣った魚を人にあげたり、動物に食べさせたりするなどの活動を加えることもできる。</p>
教材・教具	参考絵本 『ねずみのさかなつり』 作：山下明生 絵：いわむらかずお 1986 ひさかたチャイルド	教材・教具に変化を加えるための工夫点
	 <p>○台に付けた釣り糸(ロープ)の先をつまんで引っぱり、魚を釣る。</p>	<p>【魚、釣り糸】</p> <p>○大きさ(魚)：小、中、大</p> <p>○重さ(魚)：適度な抵抗を感じる重さ→徐々に重く</p> <p>○太さ(釣り糸)：つまみやすい太さ→徐々に細く</p>
支援の段階	<p>1 児童の手の甲に手を添えて、親指と人差し指の先でつまむようにして一緒につまんで引っぱる。</p> <p>2 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒につまんで途中まで引っぱってから手を離す。</p> <p>3 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がつまんで引っぱりはじめたら手を離す。</p> <p>4 児童の手首や肘を軽く持って支える。</p> <p>5 身体介助なし。</p>	
	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○釣り糸がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○魚がある場所を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p>	

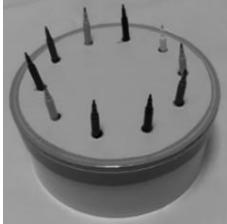
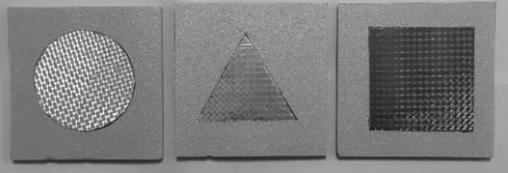
指導内容：引く・引っぱる 3段階

項目	内容						
指導内容 (標準年齢)	長いひもをたぐりよせる (2:0~)						
	基礎	長いひもを両手でたぐりよせる。					
	応用	様々な太さのより長いひもを両手でたぐりよせる。					
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点					
	<p>◇忍者になって活動する。</p> <p>1場面：修行をする。</p> <p>2場面：宝を取りに行く。</p> <p>3場面：動物を助けに行く。</p> <p>忍者になって、キャスターボードに乗って、ひもをたぐりよせながら進む。長いひもをたぐりよせて、宝などを取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平均台やマット等を組み合わせて用いることもできる。 ○忍者に関する音楽等を用いて、雰囲気づくりをする。 					
教材・教具	参考絵本 『にんじやにんじゅろう』 作：舟崎克彦 絵：飯野和好 2004 学研	教材・教具に変化を加えるための工夫点					
	 <ul style="list-style-type: none"> ○台車に乗り、張ってあるロープをたぐって進む。 ○ロープの先に宝箱等を付けておき、たぐりよせて取る。 	<p>【ひも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太さ：細く←もちやすい太さ→太く ○長さ：短い→長い 					
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の手の甲に手を添えて、ひもを一緒に持ってたぐりよせる。 2 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒にたぐりよせる。 3 児童の手の甲に軽く手を添えて、たぐりよせはじめたら手を離す。 4 児童の手首と肘を持って支える。 5 身体介助なし。 						
	支援の段階の考え方	<table border="0"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td>5 身体介助なし</td> <td></td> </tr> </table>	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	5 身体介助なし
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助						
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助						
5 身体介助なし							
両手を巧みに使うための指導・支援	○両手を交互に引く動作がスムーズにできるようになるまで、繰り返し行う。						

はめる・さす

段階	指導内容	標準年齢
1	簡単なはめ板・ペグ刺しをする	1 : 3
2	ふた・ブロックをはめたり外したりする	1 : 6
3	様々な形のはめ板・ペグ刺しをする	2 : 6

指導内容：はめる・さす 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	簡単なはめ板・ペグ刺しをする (1:3~)	
基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○△□のはめ板をはめる。 ペグを穴にランダムに刺す。 	
応用	<ul style="list-style-type: none"> 片方の手で次の穴を探して、順番に刺す。 	
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇誕生日会の準備をして、誕生日を祝う。</p> <p>1場面：自分の誕生日会をする。</p> <p>2場面：家族の誕生日会をする。</p> <p>3場面：友だちの誕生日会をする。</p> <p>ケーキにろうそく（ペグ）を刺したり、皿（はめ板）を並べたりする。準備ができたら、歌や合奏等を行う。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○誕生日会の雰囲気を味わうことができる音楽等を用いる。</p>
	<p>参考絵本</p> <p>『おたんじょうびのケーキちゃん』 作：もとしたいづみ 絵：わたなべあや 2011 校成出版社</p>	
教材・教具	  <p>○ろうそく（ペグ）を刺すと、磁石で底に付き、適度な抵抗を感じることができる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【はめ板、ペグ】</p> <p>○形状（はめ板）：○、△、□</p> <p>○数（ペグ、はめ板）：少ない→多い（10本まで）</p> <p>○刺し方（ペグ）：ランダム→片方の手で次の穴を探して順番に刺す</p>
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒にはめたり、刺したりする。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒にはめたり、刺したりして手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、はめたり、刺したりはじめたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 	
	<p>支援の段階の考え方</p>	<p>1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし</p>
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○刺す穴がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。</p> <p>○ろうそくを刺す際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p> <p>○刺すことに慣れたら、片方の手で次の穴を探して順番に刺すようにさせる。</p>	

指導内容：はめる・さす 2段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	ふた・ブロックをはめたり外したりする (1：6～)	
基 礎	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ物のふたをはめたり外したりする。 ・ブロック（正方形）をはめたり外したりする。 	
応 用	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な大きさのふたをはめたり外したりする。 ・ブロック（長方形）をはめたり外したりする。 	
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇様々なおもちゃで遊んで、片付ける。</p> <p>1場面：おもちゃで遊んで片付けをする。</p> <p>2場面：ブロックで遊んで片付けをする。</p> <p>3場面：お手伝いで片付けをする。</p> <p>おもちゃやブロックを入れ物から出して遊び、その後、入れて片付ける。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○児童が興味・関心のあるおもちゃを複数用意して一緒に遊ぶ。</p> <p>○同じ種類ごとに分けて入れさせることもできる。</p>
参考絵本	<p>『おもちゃのかたづけできるかな』 作・絵：深見春夫 2017 岩崎書店</p>	
教材・教具	 <p>○複数の種類のふた付きの入れ物を用いる。</p> <p>○児童の興味・関心のある物を中に入れて提示する。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【ふた付きの入れ物、ブロック】</p> <p>○素材（入れ物）：はめたときの感覚が分かりやすいもの（カチッ、ピタッとはまる）</p> <p>○大きさ（入れ物）：小さい→ふたのはめ外しがしやすい大きさ→大きい</p> <p>○形状（入れ物）：円形、四角形</p> <p>○形状（ブロック）：正方形、長方形</p> <p>○提示（入れ物）：ふたを一部はめたり外したりして提示→完全にはめたり外したりして提示</p>
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒ににはめたり、外したりする。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒ににはめたり、外したりして手を離す。 児童の手の甲に手を添えて、はめたり、外したりしはじめたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 	
支援の段階の考え方	<p>1 手を添えて最後まで介助</p> <p>2 手を添えて途中まで介助</p> <p>3 手を添えて最初だけ介助</p> <p>4 手首や肘を支えて介助</p> <p>5 身体介助なし</p>	
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○児童の実態に応じて、中に入れる物やブロック等を、形や大きさによって弁別させる。</p>	

指導内容：はめる・さす 3段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	様々な形のはめ板・ペグ刺しをする (2: 6~)	
	基礎	・○△□◇☆等のはめ板をはめる。 ・ペグを左右一列に刺す。
	応用	・ペグを上下一列に刺す。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	◇誕生日会の準備をして、誕生日を祝う。 1場面：自分の誕生日 2場面：家族の誕生日 3場面：友だちの誕生日 ケーキにろうそく（ペグ）を刺したり、皿（はめ板）を並べたりする。準備ができたら歌や合奏等を行う。	○誕生日会の雰囲気を味わうことができる音楽等を用いる。
教材・教具	参考絵本 『お誕生日のケーキちゃん』 作：もとしたいづみ 絵：わたなべあや 2011 佼成出版社	教材・教具に変化を加えるための工夫点
		【はめ板、ペグ】 ○形状（はめ板）：○、△、□、◇、☆等 ○数（ペグ、はめ板）：少ない→多い（10本まで） ○刺し方（ペグ）：左から右一列→上から下一列
支援の段階	1 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒にはめたり、刺したりする。 2 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒にはめたり、刺したりして手を離す。 3 児童の手の甲に軽く手を添えて、はめたり、刺したりはじめたら手を離す。 4 児童の手首や肘を軽く持って支える。 5 身体介助なし。	
	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
両手を巧みに使うための指導・支援	○刺す穴がある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。 ○ろうそくを刺す際、片方の手で入れる場所を順番に触らせてガイドさせる。	

回す

段階	指導内容	標準年齢
1	びんのふたを開ける	2 : 0
2	びんのふたを閉める	2 : 6
3	ひもを巻き付ける	3 : 0

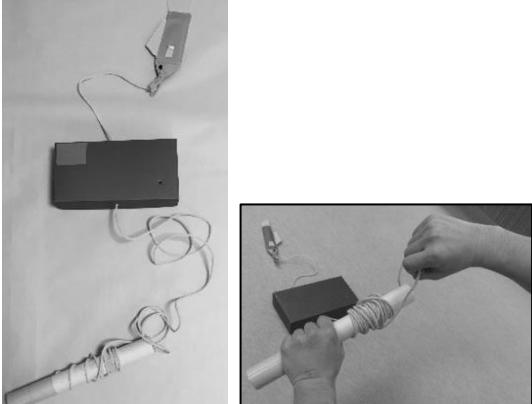
指導内容：回す 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	びんのふたを開ける (2:0~)	
	基礎	びんのふたを回して開ける。
	応用	様々な種類のびんのふたを回して開ける。
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点
	<p>◇探し物を見付けに行き、見付けて持ち帰る。</p> <p>1場面：教室で探す。</p> <p>2場面：プレイルームで探す。</p> <p>3場面：中庭で探す。</p> <p>びんのふたを開けて中に入っている物を見付けて出す。それをカゴ等に入れて持ち帰る。</p>	<p>○児童が探したいと思えるような物を選定したり、探し物を依頼される活動を設定したりする。</p> <p>○様々なところで探し物をするように、場所を設定する。</p>
参考絵本	『ムーミンのさがしもの』 文・絵：リーナ&サミ・カラ 2013 講談社	
教材・教具	 <p>○様々な大きさの入れ物を用いる。</p>	教材・教具に変化を加えるための工夫点
	<p>【びんのふた】</p> <p>○素材：指にひつかかりがある→滑らか</p> <p>○大きさ：小さい←回しやすい大きさ→大きい</p> <p>○回す回数：少ない→多い</p> <p>○ふたの締り：ゆるい→きつい</p>	
支援の段階	<p>1 児童の手の甲に手を添えて、一緒に最後まで回す。</p> <p>2 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒に回して手を離す。</p> <p>3 児童の手の甲に軽く手を添えて、回しはじめたら手を離す。</p> <p>4 児童の手首や肘を軽く持って支える。</p> <p>5 身体介助なし。</p>	支援の段階の考え方
	<p>1 手を添えて最後まで介助</p> <p>2 手を添えて途中まで介助</p> <p>3 手を添えて最初だけ介助</p> <p>4 手首や肘を支えて介助</p> <p>5 身体介助なし</p>	
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○びんのふたを開けることに慣れたら、びんのある場所を確認させるため、自分から手を伸ばして両手を左右に動かして探すようにさせる。</p> <p>○片方の手でびんを持ち、もう片方の手でふたを回すようにさせる。</p>	

指導内容：回す 2段階

項目	内容										
指導内容 (標準年齢)	びんのふたを閉める (2: 6~)										
基礎	びんのふたを回して閉める。										
応用	様々な種類のびんのふたを回して閉める。										
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇お店屋さんになって、びんに物を入れて商品を作り、配達する。</p> <p>1場面：お菓子屋さんになる。</p> <p>2場面：花屋さんになる。</p> <p>3場面：飾り物屋さんになる。</p> <p>びんの中に物を入れて、ふたを閉めて商品を作る。その後、配達をする。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○児童に配達先を選択させることもできる。</p>									
教材・教具	<p>参考絵本</p> <p>『こじかじじっこ もりのはいたつやさん』 文・絵：さかいさちえ 2007 幻冬舎</p>  <p>○様々な大きさの入れ物を用いる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【びんのふた】</p> <p>○素材：指にひっかかりがある→滑らか</p> <p>○大きさ…小さい→回しやすい大きさ→大きい</p> <p>○回す回数…少ない→多い</p> <p>○提示：びんにふたを置いて提示→ふたとびんを別々にして提示</p>									
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に最後まで回す。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒に回して手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、回しはじめたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 <table border="1"> <tr> <td>支援の段階の考え方</td> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> </tr> </table>		支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助		3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助			5 身体介助なし
支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助									
	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助									
		5 身体介助なし									
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○びんのふたを閉めることに慣れたら、びんやふたのある場所を確認させるため、自分から手を伸ばして両手を左右に動かして探すようにさせる。</p> <p>○片方の手でびんを持ち、もう片方の手でふたを回すようにさせる。</p>										

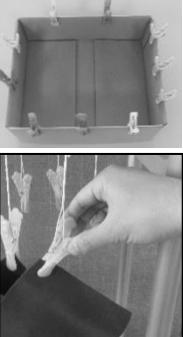
指導内容：回す 3段階

項目	内容										
指導内容 (標準年齢)	ひもを巻き付ける (3:0~)										
	基礎	ひもを巻き付ける。									
	応用	「基礎」より長いひもを、強い力で引きながら巻き付ける。									
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇魚釣りをして、魚を持ち帰る。</p> <p>1場面：池で魚釣りをする。</p> <p>2場面：川で魚釣りをする。</p> <p>3場面：海で魚釣りをする。</p> <p>持っている棒にひもを巻き付けて、魚を釣る。釣った魚を持ち帰る。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○池（ミニプール）、船（台車）等を用いて、場面を分かりやすくする。</p>									
	参考絵本 『ねずみのさかなつり』 作：山下明生 絵：いわむらかずお 1986 ひさかたチャイルド										
教材・教具	 <p>○棒を持ち、ひもを巻き付けていくと魚が釣れる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【魚、釣り竿のひも】</p> <p>○素材（魚）：様々な感触</p> <p>○大きさ（魚）：様々な大きさ</p> <p>○重さ（魚）：軽い→巻き付けやすい重さ→重い</p> <p>○長さ（ひも）：短い→長い</p> <p>○太さ（ひも）：細い→巻き付けやすい太さ→太い</p>									
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に最後まで巻く。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒に巻いて手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、巻きはじめたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 <table border="1"> <tr> <td>支援の段階の考え方</td> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> </tr> </table>		支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助		3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助			5 身体介助なし
支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助									
	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助									
		5 身体介助なし									
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○釣った魚を確認させるため、自分から手を伸ばして両手を左右に動かして探索させる。</p> <p>○棒にひもを巻き付けることができているかどうかを触って確認させる。</p>										

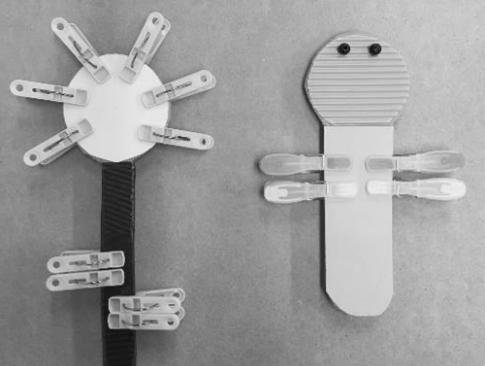
洗濯ばさみ（つまむ）

段階	指導内容	標準年齢
1	洗濯ばさみを外す（上から・横から）	2 : 6
2	洗濯ばさみで挟む（上から・横から）	3 : 0
3	洗濯ばさみで挟む（両手で挟む）	3 : 0

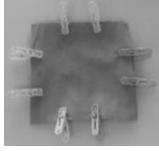
指導内容：洗濯ばさみ（つまむ） 1段階

項目	内容		
指導内容 (標準年齢)	洗濯ばさみを外す（上から・横から）（2：6～）		
	基礎	洗濯ばさみをつまんで外す。（引っぱるのではなく、つまんで外す。）	
	応用	様々な大きさや強さの洗濯ばさみをつまんで外す。	
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点	
	<p>◇洗濯屋さんになって、干してある洗濯物を外して届ける。</p> <p>1場面：赤ちゃんの洗濯物（小）を外す。</p> <p>2場面：トラの洗濯物（中）を外す。</p> <p>3場面：ゾウの洗濯物（大）を外す。</p> <p>洗濯ばさみをつまんで、干してある洗濯物を外して取る。取った洗濯物をカゴ等に入れて持ち主に届ける。</p>	<p>○動物の鳴き声や音声等を用いて、場面を分かりやすくする。</p> <p>○洗濯物を取る前に、箱に付けた洗濯ばさみをつまんで取る練習をさせる。</p> <p>※洗濯ばさみをつまんで開くことを意識させる。</p>	
参考絵本	参考絵本 『せんたくねこさん』 作・絵：高木さんご 2012 チャイルド本社		
	 	教材・教具に変化を加えるための工夫点 【洗濯ばさみ】 ○大きさ：小さい←つまみやすい大きさ→大きい ○はさむ強さ：弱い→強い	
教材・教具	○洗濯ばさみを吊るした物干し台を用いる。 ○洗濯ばさみの種類を変えることができる。 ○練習で用いる箱に付けた洗濯ばさみ。(右上)		
	1 児童の手の甲に手を添えて、一緒につまんで外す。 2 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒につまんでから手を離す。 3 児童の手の甲に軽く手を添えて、つまもうしたら手を離す。 4 児童の手首や肘を軽く持って支える。 5 身体介助なし。		
支援の段階	支援の段階の考え方 1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし		
	○洗濯ばさみがある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら洗濯ばさみを触らせる。 ○洗濯物を全て取り終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら洗濯ばさみを触らせる。		

指導内容：洗濯ばさみ（つまむ） 2段階

項目	内容										
指導内容 (標準年齢)	洗濯ばさみで挟む（上から・横から）（3：0～）										
基礎	洗濯ばさみをつまんで挟む。										
応用	様々な大きさや強さの洗濯ばさみをつまんで挟む。										
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>◇洗濯ばさみで挟み、様々な物や生き物に変身させる。</p> <p>1場面：花に変身させる。</p> <p>2場面：生き物に変身させる。</p> <p>3場面：飾りに変身させる。</p> <p>洗濯ばさみで挟んで、様々な物や生き物をつくり、教室に飾る。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○生き物の鳴き声や音声等を用いて、場面を分かりやすくする。</p> <p>○児童がつくりたい物を選択させることもできる。</p>									
参考絵本	<p>『あそべるえほん②ちちんぷいぷい・せんたくばさみ』 作：竹井史郎 絵：村上康成 1983 くもん出版</p>										
教材・教具	 <p>○洗濯ばさみで挟んで、花や生き物をつくる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【洗濯ばさみ】</p> <p>○大きさ：小さい←つまみやすい大きさ→大きい</p> <p>○はさむ強さ：弱い→強い</p>									
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒につまんではさむ。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒につまんでから手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、つまもうしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 <table border="1"> <tr> <td>支援の段階の考え方</td> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> <td></td> </tr> </table>		支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助		3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助		5 身体介助なし	
支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助									
	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助									
	5 身体介助なし										
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○片方の手で、挟む場所の近くをガイドさせる。</p>										

指導内容：洗濯ばさみ（つまむ） 3段階

項目	内容						
指導内容 (標準年齢)	洗濯ばさみで挟む（両手で挟む）（3：0～）						
	基礎	両手で洗濯ばさみに物を挟む。					
	応用	様々な大きさや強さの洗濯ばさみに両手で物を挟む。					
活動例	意欲を高めるストーリー	活動における工夫点					
	<p>◇洗濯屋さんになって、頼まれた洗濯物を干す。</p> <p>1場面：動物の洗濯物を干す。</p> <p>2場面：友だちや先生の洗濯物を干す。</p> <p>3場面：自分や家族の洗濯物を干す。</p> <p>客から洗濯物を預かり、洗濯をした後、洗濯ばさみで洗濯物を挟んで干す。</p>	<p>○動物の鳴き声や音声等を用いて、場面を分かりやすくする。</p> <p>○洗濯物を干す前に、布に洗濯ばさみを挟む練習をさせる。</p>					
参考絵本 『せんたくねこさん』 作・絵：高木さんご 2012 チャイルド本社							
教材・教具	  	教材・教具に変化を加えるための工夫点 【洗濯ばさみ】 ○大きさ：小さい→つまむやすい大きさ→大きい ○はさむ強さ：弱い→強い					
	<p>○洗濯ばさみを吊るした物干し台を用いる。</p> <p>○洗濯ばさみの種類を変えることができる。</p> <p>○練習で用いる布と洗濯ばさみ。（右上）</p>						
支援の段階	<p><洗濯物を持つ方の手に対する支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、挟み終わるまで一緒に持つ。 児童の手の甲に手を添えて、挟む途中まで一緒に持つてから手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、挟みはじめたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持つて支える。 身体介助なし。 						
	支援の段階の考え方	<table border="0"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> </tr> </table>	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助						
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助						
	5 身体介助なし						
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○洗濯ばさみがある範囲を確認させるため、両手を左右に動かしながら洗濯ばさみを触らせる。</p> <p>○洗濯物を全て干し終わったことを確認させるため、両手を左右に動かしながら洗濯ばさみや洗濯物を触らせる。</p>						

【共通】

押す・押さえる

段階	指導内容	標準年齢
1	手のひらで物を押す	0 : 6
2	手のひらで物を押さえ続ける 指先でボタン・スイッチを押す	0 : 9
3	指先で物を押さえ続ける	1 : 6

指導内容：押す・押さえる 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)	手のひらで物を押す (0 : 6~)	
	基礎	手のひらでスイッチを押す。
	応用	
活動例	意欲を高めるストーリー ※他の指導内容と関連付け、スイッチを押して音楽や音声を再生する活動を設定する。	活動における工夫点 ○児童の興味・関心に応じて、多様な音楽や音声を用いる。
教材・教具	 ○スイッチを押すことで、録音した音楽や音声を再生することができる。	
	教材・教具に変化を加えるための工夫点 【スイッチ】 ○ボタンの感触：はっきりと押したことが感じられるもの	
支援の段階	1 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒にスイッチを押す。 2 児童の手の甲に手を添えて、スイッチの押しあじめのみ一緒にを行う。 3 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がスイッチを押そうとしたら手を離す。 4 児童の手首や肘を軽く持って支える。 5 身体介助なし。	
	支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし
両手を巧みに使うための指導・支援	○スイッチを押すことに慣れたら、スイッチの場所を確認させるために、両手を左右に動かしながら机上を隅々まで探索させる。	

指導内容：押す・押さえる 2段階

項目	内容						
指導内容 (標準年齢)	手のひらで物を押さえ続ける (0:9~) 指先でボタン・スイッチを押す (0:9~)						
	基 礎	<ul style="list-style-type: none"> 手のひらでスイッチを押さえ続ける。 指先でボタン・スイッチを押す。 					
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>※他の指導内容と関連付け、スイッチを押して音楽や音声を再生する活動を設定する。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○児童の興味・関心に応じて、多様な音楽や音声を用いる。</p>					
教材・教具	 	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【スイッチ】</p> <p>○ボタンの感触：はっきりと押したことが感じられるもの</p> <p>○スイッチを押さえ続けることで、録音した音楽や音声を再生することができる（左）。</p> <p>○スイッチを押すと、V O C Aに録音した音楽や音声を再生することができる（右）。</p>					
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒にスイッチを押さえ続ける。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒にスイッチを押して手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がスイッチを押そうとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 						
	支援の段階の考え方	<table border="0"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td>5 身体介助なし</td> <td></td> </tr> </table>	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	5 身体介助なし
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助						
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助						
5 身体介助なし							
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○スイッチの場所を確認させるために、両手を左右に動かしながら机上を隅々まで探索させる。</p>						

指導内容：押す・押さえる 3段階

項目	内容							
指導内容 (標準年齢)	指先で物を押さえ続ける (1：6～)							
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>※他の指導内容と関連付け、スイッチを押して音楽や音声を再生する活動を設定する。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○児童の興味・関心に応じて、多様な音楽や音声を用いる。</p>						
教材・教具	 <p>○スイッチを押さえ続けることで、録音した音楽や音声を再生することができる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【スイッチ】</p> <p>○ボタンの感触：はっきりと押したことが感じられるもの</p>						
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、児童と一緒にスイッチを押さえ続ける。 児童の手の甲に手を添えて、途中まで一緒にスイッチを押して手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、児童がスイッチを押そうとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 	<p>支援の段階の考え方</p> <table border="0"> <tr> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td>5 身体介助なし</td> <td></td> </tr> </table>	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助	5 身体介助なし	
1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助							
3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助							
5 身体介助なし								
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○スイッチの場所を確認するために、両手を左右に動かしながら机上を隅々まで探索させる。</p>							

【共通】

入れる (はなす)

段階	指導内容	標準年齢
1	かご等の中に物を入れる	0 : 9
2	握っている物を小さい箱等に入れる	1 : 3
3	つまんでいる小球・小粒をコップ等に入れる	2 : 0

指導内容：入れる（はなす） 1段階

項目	内容	
指導内容 (標準年齢)		かご等の中に物を入れる（0：9～）
基礎	かご等の中に物を入れることができる。（目的の場所で持っている物をはなす。）	
応用		
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>※他の指導内容と関連付け、手に取った物を入れる活動を設定する。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○入れて持ち運ぶ、入れると応答する等の場面設定により、活動に対する意欲を高める。</p>
教材・教具	 <p>○VOCΑとスイッチをつなぐことで、物を入れると音楽や音声を再生することもできる。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【かご】</p> <p>○入れ口の広さ：入れたことを感じやすい広さ（ぴったりしている）→広く</p>
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に入れる。 児童の手の甲に手を添えて、入れ口まで一緒に持っていく、手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、入れ口に持っていくとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 	
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>支援の段階の考え方</p>	<p>1 手を添えて最後まで介助 2 手を添えて途中まで介助 3 手を添えて最初だけ介助 4 手首や肘を支えて介助 5 身体介助なし</p> <p>○入れ口を確認させるため、両手を左右に動かしながら隅々まで触らせる。 ○入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p>

指導内容：入れる（はなす） 2段階

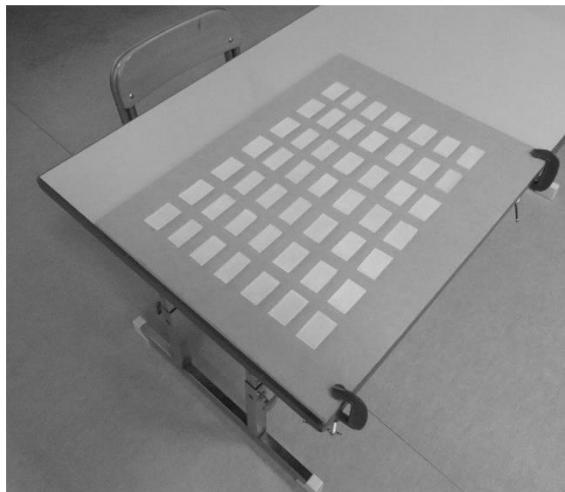
項目	内容										
指導内容 (標準年齢)	握っている物を小さい箱等に入れる（1：3～）										
基礎	小さい箱等の中に物を入れる。										
応用											
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>※他の指導内容と関連付け、手に取った物を入れる活動を設定する。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○入れて持ち運ぶ、入れると応答する等の場面設定により、活動に対する意欲を高める。</p>									
教材・教具	 <p>○1段階よりも小さい入れ物を用いる。 ○缶を用いることで、ビー玉等の固い物を入れると音が鳴る。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【箱（缶）】</p> <p>○入れ口の広さ：入れたことを感じやすい広さ（ぴったりしている）→広く</p>									
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に入れる。 児童の手の甲に手を添えて、入れ口まで一緒に持っていく、手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、入れ口に持っていくとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 <table border="1"> <tr> <td>支援の段階の考え方</td> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> </tr> </table>		支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助		3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助			5 身体介助なし
支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助									
	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助									
		5 身体介助なし									
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p> <p>○片方の手で入れ物を持ち、もう片方の手で入れるようにさせる。</p>										

指導内容：入れる（はなす） 3段階

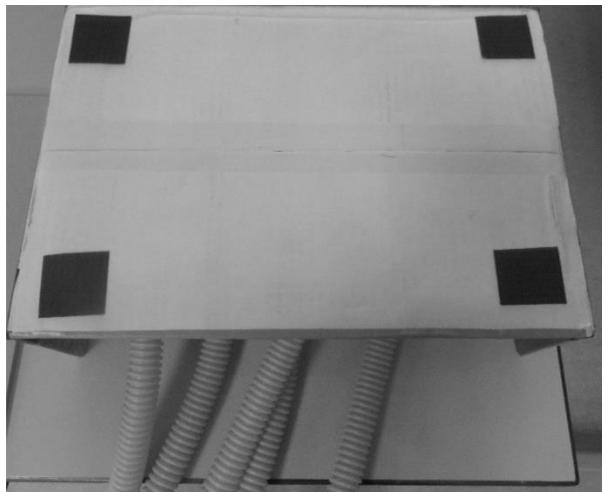
項目	内容										
指導内容 (標準年齢)	つまんでいる小球・小粒をコップ等に入れる（2：0～）										
活動例	<p>意欲を高めるストーリー</p> <p>※他の指導内容と関連付け、手に取った物を入れる活動を設定する。</p>	<p>活動における工夫点</p> <p>○入れて持ち運ぶ、入れると応答する等の場面設定により、活動に対する意欲を高める。</p>									
教材・教具	 <p>○2段階よりも小さい入れ物を用いる。 ○実際のコップを用いてもよい。</p>	<p>教材・教具に変化を加えるための工夫点</p> <p>【コップ（入れ物）】</p> <p>○入れ口の広さ：入れたことを感じやすい広さ（ぴったりしている）→広く</p>									
支援の段階	<ol style="list-style-type: none"> 児童の手の甲に手を添えて、一緒に入れる。 児童の手の甲に手を添えて、入れ口まで一緒に持っていく、手を離す。 児童の手の甲に軽く手を添えて、入れ口に持っていくとしたら手を離す。 児童の手首や肘を軽く持って支える。 身体介助なし。 <table border="1"> <tr> <td>支援の段階の考え方</td> <td>1 手を添えて最後まで介助</td> <td>2 手を添えて途中まで介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 手を添えて最初だけ介助</td> <td>4 手首や肘を支えて介助</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>5 身体介助なし</td> </tr> </table>		支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助		3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助			5 身体介助なし
支援の段階の考え方	1 手を添えて最後まで介助	2 手を添えて途中まで介助									
	3 手を添えて最初だけ介助	4 手首や肘を支えて介助									
		5 身体介助なし									
両手を巧みに使うための指導・支援	<p>○入れる際、片方の手で入れる場所を触らせてガイドさせる。</p> <p>○片方の手で入れ物を持ち、もう片方の手で入れるようにさせる。</p>										

教材・教具の固定方法

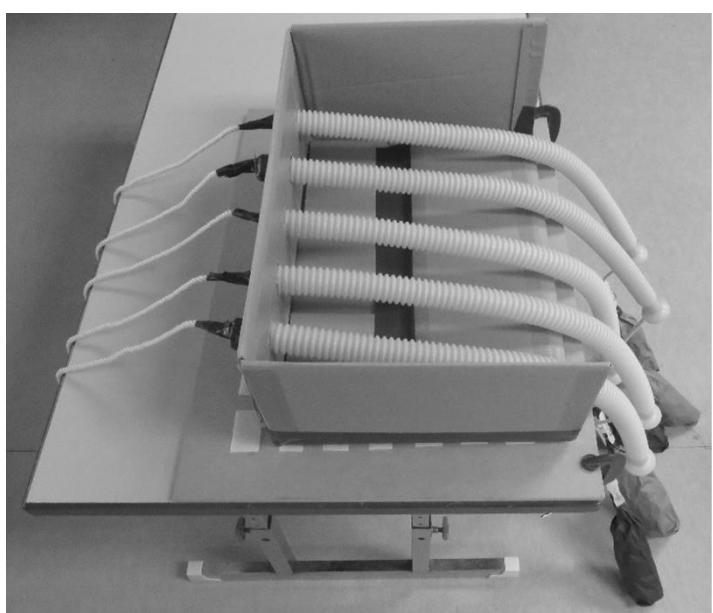
目標とする手指の技能を習得させるためには、まずは、しっかりと安定した状態で提示された教材・教具に対して児童が手を伸ばし、操作や探索を行うことが大切であると考える。そのために、本プログラムの教材・教具は、以下の図に示す方法により、机上に固定することができるようしている。また、基礎となる手指の技能を習得させた後には、片方の手で支えて、もう片方の手で操作する等といった両手の協応動作をより一層促すために、あえて教材・教具を固定せずに提示することもできる。



面ファスナーを貼った木製のボードを、
クランプで机上に固定する。



教材・教具の裏面にも面ファスナーを貼
つておく。



教材・教具を机上に固定した状態で活動を行う。

本プログラムの
教材・教具の多く
は、この方法で固
定して使用する
ことができる。

評価シート（例）【詳細版】

【手指の技能】

時間	目標				実施回数	結果 (支援の段階)
	プログラムの段階	支援の段階	手指の活動	予定回数		
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

時間	児童の行動
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
⋮	⋮

【意欲】

時間	手：手指の活動 ス：ストーリーに関する活動	児童の行動	結果 (意欲の段階)
1	手：		
	ス：		
2	手：		
	ス：		
3	手：		
	ス：		
4	手：		
	ス：		
5	手：		
	ス：		
6	手：		
	ス：		
7	手：		
	ス：		
⋮	⋮	⋮	⋮

評価シート（例）【簡易版】

時間	プログラムの段階	支援の段階	意欲の段階		児童の行動
			手※	ス※	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

※手：手指の活動

※ス：ストーリーに関する活動

意欲の評価基準

段階	児童の行動
1	指導者から 繰り返し誘われる ことで、学習に取り組んでいる。
2	指導者からの 誘い掛けにすぐに応じて 、学習に取り組んでいる。
3	指導者からの 誘い掛けがなくても、活動の目的や流れを理解して 、学習に取り組んでいる。
4	「 まだ（もっと）やりたい。 」等の意思を伝えて、学習に取り組んでいる。
5	より難しい内容 の学習にも、自ら進んで取り組んでいる。